

# 内発協が第43回定時総会を開催



内発協の第43回定時総会

内発協（今永隆会長、東京都港区芝）は6月8日、東京・飯田橋のホテルグランドパレス3F松の間で「第43回定時総会」を、引き続き、4Fゴールデンルームで「総会懇親会」を開催しました。

総会の冒頭で今永会長が開会あいさつを行いました。続いて江藤陽二副会長（デンヨー株式会社代表取締役副社長）が議長に就任し、審議を開始しました。審議事項として、①第1号議案の平成29年度事業報告、②第2号議案の平成29年度決算報告について、承認されました。報告事項として、①平成30年度事業計画、②平成30年度収支予算、③公益目的支出計画実施報告書に関して、専務理事が説明を行いました。17時頃、総会は終了しました。

引き続き、同じ会場で「功労者感謝状贈呈」が行われました。

「理事会・政策審議委員会運営」の功労者として、政策審議委員会委員を務める青木清治氏（東洋電機製造株式会社）が、「専門技術者事業運営」の功労者として、専門技術者講習・試験講師、専

門技術者テキスト委員を務める井上智之氏（三菱重工エンジンシステム株式会社）が表彰されました。

また、「製品認証事業運営」の功労者として、製品認証に関する管理責任者を務める納富保幸氏（三菱電機株式会社）が、金井保博氏（ヤンマー株式会社）が表彰されました。さらに、「ガス専焼発電設備用ガス供給系統評価委員会運営」に対する功労者として、委員長の山崎文雄氏（千葉大学教授）と副委員長の堀宗朗氏（東京大学教授）が表彰されました。表彰を受けた6名全員に対し、今永会長より感謝状と記念品が贈呈されました。

総会懇親会では、今永会長の開会あいさつに続き、経済産業省、総務省消防庁、国土交通省の来賓があいさつを述べました。（参照：6～7ページ）

乾杯の音頭は伊藤拓実副会長（株式会社小松製作所）が、中締めのおあいさつは江藤陽二副会長がそれぞれ行いました。会場には正会員、賛助会員、内発協委員会委員、来賓、事務局を合わせて164名が出席しました。

## あいさつ（要旨）

一般社団法人 日本内燃力発電設備協会

会長 **今永 隆** 氏

### 懇親会での今永隆会長あいさつ

まず、内発協が取り組む2本柱の主要事業について、現時点での進捗状況を報告いたします。「製品認証事業」については、小規模容量の自家発電装置を中心として認証件数が伸びています。全体としては、前年度に比べ、認証件数が2%程度増加しています。

一方、発電装置全般の業務に携わる「専門技術者の育成の事業」については、人手不足を反映して新規受験による専門技術者の資格取得者数は減少してきています。しかし同時に、団塊世代の資格保有者の方々には同資格を更新していただく方々が増えてきております。その結果、更新受講による資格保有者数の増加に伴い、全体としては、専門技術者資格数は増加を続けてきております。

また、当協会の会員数についても、前年度末に比べ、3社増加して229社となっています。事業運営は比較的順調に推移してきています。

さて、先日、大手日刊紙の記事によると、「南海トラフ地震による被害推計は1,400兆円にのぼる」という被害推計が報道されていました。実際に地震が起こった場合、建築物等への直接的な被害にとどまらず、その後の20年間という長期にわたり、社会活動・経済活動に対する影響がのこると想定されています。

ただし、今後、防災・減災分野に対する事前対策として、「40兆円～50兆円を投じて自然災害に対する追加的な措置を特別に講じた場合、1,400兆円の被害推計のうち、500兆円規模の被害総額の減額が期待できる（土木学会談）」と報道されていました。

平成23年3月の東日本大震災による建築物等への直接的な被害額は約17兆円と推計されています。一

方、南海トラフ地震による建築物等への直接的な被害額は約10倍に相当する約170兆円と推計されています。それに加えて、震災後に発生する社会的・経済的な影響に対する間接的な被害額は約1,200兆円にのぼると推計されています。

地球の陸地面積に対する日本の国土面積は0.3%にしか過ぎません。しかしながら、自然災害による日本の被害総額は全世界の被害総額の17%も占めています。自然災害が起こった事後に発生する社会的・経済的な影響、いわゆる2次的な被害に対する、事前対策が今後の課題となります。

内発協としては、非常用自家発電装置の安定的な運用に取り組むとともに、さらなる普及促進、導入容量の拡大、発電装置の品質性確保、信頼性向上に少しでも寄与し、また、そういう観点に基づきながら今後の協会事業を的確に進めて自然災害による被害を抑制していくことが重要な課題であると考えています。どうぞよろしくご厚意申し上げます。

経済産業省 産業保安グループ

しらが  
電力安全課長 **白神 孝一** 氏

経済産業省 産業保安グループ電力安全課の白神です。平素より、経済産業省の電力安全行政にご理解とご協力を賜りありがとうございます。

まずは、定時総会が滞りなく終了したこと誠におめでとうございます。

さて、近年、自然災害の激甚化が進んでおり、昨年7月には九州北部豪雨も起きております。

そういった時勢において、非常時に必要な場所に必要な電力を届ける非常用自家発電設備の役割というものは益々重要になってきております。

貴協会においては、製品認証事業と専門技術者の育成を通じ、非常用自家発電設備の安全確保及び信頼性向上に貢献していただいていることに改めて御礼を申し上げたいと思います。

話は変わりますが、経済産業省では、コネクテッドインダストリー（Connected Industries）という、IoTやAIの技術を使って、あらゆるものを繋げてデータを共有して生産性を上げるという政策を推進しております。

これは、従来、競争関係にあった企業同士がつながり、協調できる分野について電子データ化された産業技術・技能等データが有効活用されることで技術革新、生産性向上を実現し課題解決を図るものです。

貴協会においては、共通の課題を解決していく場としての役割も益々重要になってきていると認識しておりますので、こうした政策も非常用自家発電設備の分野においても、ご参考にしていただければと思います。

最後になりますが、これからも引き続き貴協会のお力をお借りし、非常用自家発電設備の保安の確保及び信頼性向上に努めて参りたいと考えておりますので、お力添えをお願いいたします。貴協会のより一層のご発展と皆様方のご健勝を祈念して、ご挨拶とさせていただきます。

総務省 消防庁 予防課

設備専門官 **塩谷 壮史** 氏

総務省消防庁予防課の塩谷です。

日頃より、貴協会においては、消防行政に関してご協力とご貢献をいただき、誠に感謝しております。貴協会との関係で申しますと、このたび、平成30年6月1日付けで消防用設備等に係る自家発電設備について、点検基準及び点検要領を改正いたしました。今回の改正は、自家発電設備の負荷運転による点検が実態として困難であるとのお話をいただいていたことを踏まえ、実機での検証や現場での実態調査に基づく検討により自家発電設備の点検方法の合理化を図ったものでございます。

検討段階から改正までの間、貴協会をはじめ、関係各位の皆様にも多大なるご協力をいただきましたことをこの場をお借りして改めて御礼を申し上げます。ありがとうございました。

今後、消防庁としましては、新たな制度に関して、正確な情報を普及・啓発していくことが必要だと考えておりますので、リーフレットを作成するとともに、消防庁ホームページにおける掲載することを通じて、広報啓発を図っていく所存です。

貴協会におかれましても、当該リーフレットを用

いた普及啓発や今回の改正内容を踏まえた技術者講習テキストの改訂など、自家発電設備の適切な維持管理の推進に向けて引き続きご協力をお願いしたいと考えております、

結びになります。貴協会のますますのご発展、ご多幸を祈念いたしまして挨拶とさせていただきます。本日はおめでとうございませう。

国土交通省 住宅局 建築指導課

昇降機等事故調査室長 **上森 康幹** 氏

貴協会の皆様方には日頃から国土交通行政・建築住宅行政に格別のご協力・ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

最近の建築住宅行政におけるトピックスと致しまして、建築基準法の一部を改正する法律案がございます。

今回の案には3つのポイントがあります。1点目は、一昨年の糸魚川市の火災事故等を受け、老朽化した建築物の建替え等による建築物・市街地の安全確保を図ること。2点目は空き家が増加傾向にある中、既存の建築ストックの活用を進めること。3点目が木材を有効活用した建築を推進することです。現在国会にて審議頂いております。

また、一昨年の熊本地震においては、構造体の部分的損傷や非構造部材の落下等で、建築物の機能継続が困難になった状況が多数見受けられました。

このような事態を受け、国土交通省では5月に「防災拠点等となる建築物に係る機能継続ガイドライン」を取りまとめ、大きな補修をしなくとも業務継続し得る設計や、自家発電設備の確保についても記載しております。取りまとめにあたっては貴協会にもご協力を頂いており感謝申し上げます。更に貴協会におかれては「自家発電設備の耐震性能調査」について報告書を発行されると伺っており、この調査結果が自家発電設備の更なる耐震性の向上につながることを期待しております。

自家発電設備またその業務に携わる皆様方の役割の大きさは、今後益々重要になるものと考えております。貴協会の益々の発展と御参集の皆様方の御健勝を祈念しまして挨拶と代えさせていただきます。